

人材 × 設備 × 伝承

強みを活かして駆け抜けた1世紀
小林鉄工 株式会社



小林鉄工株式会社
KOBAYASHI IRON WORKS Ltd.

小林鉄工(株)は大正6年に創業し、2017年で創業100年を迎えた老舗企業です。創業以来、永年にわたって培ってきた総合的な技術力を活かし、造船パーツや発電用タービンパーツをはじめ、大型の機械部品をユーザーニーズに的確かつ迅速に应运へて供給しています。今回は、代表取締役社長の河田香氏に会社の創業や現在の事業、現場の取り組みや人材活用・教育についてお伺いしました。

— 大正6年に大阪市西区で
産声をあげた小林鉄工所

当社は、大正6年5月に、祖父である小林茂蔵が大阪市西区の地で、借家の1階を使い、船舶用のエンジンの製造業、小林鉄工所を創業したのが始まりです。昭和元年には、船舶用内燃機関の需要も増え、大正区北泉尾町に新工場を設立しました。200坪の土地に150坪の鉄骨の建築。当時は区内で初めての鉄骨建築ということで、基礎造りに多くの住民が見学を訪れたと聞いています。時代を感じますね。

創業以来、会社は順調でしたが、昭和9年に発生した室戸台風により、甚大な浸水被害がありました。茂蔵はこれを機に今後の家業について深く考えました。そして、自社の技術力やノウハウをより活かして、他社と差別化を図る、中型・大型製品を事業の中心に据えることに決めたのです。

しかし、その後数年で太平洋戦争が開戦。当社は軍需品の製造にあたることとなり、家業は中止となりました。茂蔵は大型製品の製造を事業の中心にすると決めてから、自社開発の正面旋盤の製造を夢見てきました。軍需品の製造の傍らに進め、ついに昭和18年に自社開発の正面旋盤を完成させます。感無量の喜びであったと聞いています。終戦と同時に大型部品の加工業を本格的に再開しました。

— 大型製品の製造と高度経済成長
そして南港工場の新設へ

昭和30年、創業者である茂蔵が死去。2代目として三男の稔が会社を引き継ぎました。父の意志を継ぎ、これまで通り大型製品の加工を軸とし、工場の拡張や3mロール旋盤やシカル盤といった大型の加工機も導入しました。この頃、さらなる大型の製品加工を検討していましたが、工場周辺の道幅が狭く、トラックが入ってこれないという課題にぶつかります。

ちょうどその頃に工業団地新設の話があり、昭和51年、南港工場を新設しました。工場建築の杭、機械設置の杭、将来を見据えた杭まで打ち込み、西側で岩盤まで34m、東側で62～63mの深さという驚きから始まる工事でした。新工場の完成は社員、その家族も皆大喜びでした。

手前味噌ですが、瀬戸大橋の着工や、関西国際空港の開港にあたっては、当社の加工部品が使用されており、自分たちの成果が確認できるものが、関西を象徴する場所で現在も使われていることに誇りを感じます。

— 当社の強み

当社の強みについて考えてみると、まず1つ目は様々な加工に対応できるということです。大型の縦旋盤、横ぐり盤、五面加工機、ボール盤を使い、



西島製作所様から感謝状を受ける河田社長(写真右)

小林鉄工 株式会社

代表取締役社長：河田 香 氏
本社：大阪市住之江区南港東3-2-76
創業：1917 (大正6) 年
社員数：15名
事業内容：大型機械部品の加工



本 社 外 観

工場には大型の工作機械がずらり



工場には大型の縦旋盤、横中ぐり盤、五面加工機、ボール盤などがずらり。各機械に作業者が専任でついでおり、加工や検査などを行っています。海外の作業者も活躍されています。

製品を紹介する北林工場長

工場を丁寧にご案内いただいた北林工場長。優しい人柄で、若手社員の相談にも親身になって対応する。工場を1つにまとめる中心人物と言えます。



社内で全て加工できます。また、納期や仕様などのお客様の要望には、できる限り応えるようにしています。このように融通がきくというのも強みかもしれません。

また、当社を支える技能者も強みです。「なにわの匠」に認定された職人の気質は若い技能者にも受け継がれており、不可能だと思われる加工を可能にするチャレンジ精神が当社の競争力の源だと自負しています。市販品で対応できなければ治具や工具も自分たちで作成し、一品一様の加工に対応しています。

強みとして最後にあげるのは100年を超える当社の歴史と蓄積されたノウハウでしょう。100年の歴史はお客様との歴史でもあります。取引歴数十年という永いお付き合いの会社も多く、何度も押し寄せる不景気の波を乗り越えてこれたのも、そんな取引先のおかげです。2018年の台風の際、屋根に受けた被害で操業も難しいかと悲嘆にくれていた時、長いお付き合いの会社の方が直ぐに見舞いに駆けつけてくださった時には、その温かさに感動し、勇気が湧きました。

ノウハウの蓄積では、新しい製品を加工する際は加工履歴から加工手順、工具選択、加工条件、リスク予知等をし、納期の短縮と品質の向上に役立っています。

— 1人の匠から

全員の知恵と創意工夫へ

10年ほど前は、勤続40年以上のベテラン作業者が数名おり、その方たちに頼って仕事をしていました。しかし、そうした会社を長年支えてきたベテラン作業者も徐々に定年を迎え、技能伝承の重要性と同時に難しさを痛感しています。ベテラン作業者は職人気質で、「見て覚えろ」の世界で育った者たちです。また、当社は一品物の加工が大半で、手順書を作成するのも難しく、さらに、手順書だけでは、勘、コツと言った肝となる部分は伝えきれません。

そこで、工場長をはじめグループ全員の知恵と工夫で補うことにしました。そこへ時折、OBの知恵を借りてきます。そうすることで、新たな知見が得られることも少なくありません。また、若手社員の育成もグループ全体で行います。当社の目指す「管理するより、個々の能力を最大限発揮できる会社」という目標と工場長の人柄が合致し、今はこのスタイルでうまくいっています。

— 今後を見据えて・・・

当面の目標はベテラン作業者が抜けた状態でも品質、生産性の向上を実現することです。弊社では機械オペレーター自身がプログラムも作成しますが、一品一様の加工のため、ベテラ

ン作業者はプログラムを組むことなくNC機を汎用機のように使うこともあります。一方、若手作業者は先輩作業者に相談しながらでもプログラムを作成する方が得意です。このように、若手作業者は先輩作業者である「職人」の知恵と最新のNC機の能力を併せ、自動運転なども使いながら、生産性を上げるよう努力しています。こうした取り組みが技能の伝承にもつながり、世代交代に強い会社にしていけると考えています。

そして今後は、各業界の活況、不況の波の影響を最小限にできるよう、再生可能エネルギーなど、新たな分野にも挑戦したいと考えています。

機械加工を営むいわゆる「鉄工所」の数は減ってきています。これからは、同業他社と張り合うのではなく、連携し協力していくことも重要だと思います。一口に加工屋といっても、それぞれ得意分野があるものです。難しいとは思いますが、その得意分野を持ち寄りいくつもの鉄工所が「緩やかな一つ」になれるようなシステムが実現できれば、大阪の産業の振興になるのではないのでしょうか。

— 貴重なお話をいただき、
誠にありがとうございました